



Dedar Singh Gill

シンガポール 高等裁判所 裁判官

【略歴】

Dedar Singh Gill裁判官は2018年8月1日に最高裁判所司法委員、2020年8月1日に高等裁判所裁判官に任命された。

任官前はMessrs. Drew and Napier LLCで知的財産部マネージングディレクターを務め、主要企業クライアントの弁護士として高等裁判所や控訴裁判所に出廷し、知的財産法の専門知識・経験によって名声を築いた。

同氏はSundaresh Menon最高裁判所長官により任命され、高等裁判所の知的財産（IP）事件を担当し、IP紛争解決枠組検討委員会により勧告されたシンガポールの知的財産紛争解決制度の見直しを実施した



Leck Kwang Hwee Andy

シンガポール ベーカー&マッケンジー法律事務所 弁護士

【経歴】

Andy Leck氏はシンガポールで知的財産・テクノロジー（IPテック）業務グループ長および紛争解決業務グループのメンバーを務める。また、ベーカー&マッケンジー法律事務所の地域IP業務グループの主要メンバーであり、ミャンマーIP業務グループのリーダーも務める。

同氏は信頼の置ける世界的業界誌や法律系出版物において、専門分野のリーダーと認められており、2018年アジアビジネスロージャーナルの「The A-List: Singapore's Top 100 lawyers（Aリスト：シンガポールのトップ100人の弁護士）」に選出された。また、Chambersのアジア太平洋地域版は同氏を「大規模な商標訴訟だけでなく、メディアやテクノロジー業界の知的財産権商業利用分野でも高い実績を誇る著名なIP実務家である。法曹界での経験は長く、常に高い評価を得ており、公明正大であることでも知られ、交渉の現場にいて欲しい人物である。」と評している。アジアンリーガルビジネスは同氏を知的財産分野屈指の実務家であり、「迅速かつ適切な助言を常に与え、クライアント本位に徹し、実務分野の専門知識に長けている」と述べている。

2021年4月、シンガポール知的財産庁（IOPS）は審理を担当する知的財産審判官（任期2年）に同氏を任命。2010年5月にはシンガポール著作権審判所のメンバーに選任され、WIPO仲裁調停センターの調停人を務めている。また、シンガポール公証人・宣誓供述管理官にも任命されている。国際商標協会理事、常務理事を務めた経験もある。

【専門実務分野】

知的財産、企業訴訟、仲裁案件（※係争の有無を問わない）の経験が20年以上あり、フォーチュン500にランクインしている製薬、生命科学、消費財、小売、テクノロジーやエネルギー企業の代理人を常時務めている。

知的財産分野での経験はビジネス関連業務、顧問業務、著作権侵害対策、民事執行、刑事執行、ポートフォリオマネジメントやIP関連紛争全般に及ぶ。世界的に有名な商標、ブランド名、テクノロジーの所有者を含む国内外のクライアントの代理人を務め、IPポートフォリオマネジメントのあらゆる面で支援しているほか、主にテクノロジー、フランチャイズ、製薬、メディア業界の知的財産権の商業利用に関する助言も行っている。

紛争解決分野では、国境をまたぐ複雑な紛争案件を中心に、さまざまな業界の訴訟および国際仲裁業務を担当。定期的にシンガポール高等裁判所や国際商業会議所（ICC）、シンガポール国際仲裁センター（SIAC）、国際連合国際商取引法委員会（UNCITRAL）といった主要な機関規則に基づく国際仲裁に出廷している。

企業コンプライアンス分野では、政府・規制当局の調査や知的犯罪事案の弁護などの業務を行っている。

詳細はウェブサイト（<https://www.bakermckenzie.com/en/people/l/leck-andy>）を参照。



ダニー・ヤップ / Danny Yap

シンガポール知的財産庁インターナショナル 上級特許審査官

【略歴】

ヤップ氏はシンガポール知的財産庁(IPOS)インターナショナルの上級特許審査官を務めており、シンガポール法曹協会ジャーナル等でAIおよびフィンテック分野における特許の役割に関するいくつかの論説を執筆している。同氏は、拒絶査定を受けた特許出願の独立再審査を行うほか、特許保護適格性に関する審査実務の具体化およびIPOS特許審査ガイドラインにおける対応ガイダンスの起草においても重要な役割を担っている。さらに、シンガポールにおけるAI関連の知的財産政策に関するIPOSで進行中の研究およびレビューにも携わっているほか、AIおよびIOT等のコンピュータ実施発明(CII)分野の特許検索および審査も行っている。

同氏は、シンガポール国立大学理学部で物理学の理学修士号および理学士号（最優等）、南洋理工大学経営学大学院で金融工学の理学修士号、シンガポール国立大学法学部で知的財産法の準修士（優等）を取得している。IPOSインターナショナル入庁前は、DSO国立研究所で科学研究員および技術職員の主幹メンバーを務めた経験を持つ。